特集 予算をみれば、
まちの「未来（あした）」がみえてきます

平成14年度は、「市民によるまちづくり」と「市民活動の活性化」がキーワード

今、日本経済が長い景気の低迷から脱することができないことにより、国や地方自治体の財政は、極めて厳しい状況にあります。

そのため国においては、「聖域なき構造改革」が進められつつあり、市としても新しい時代の潮流を的確にとらえた予算編成を行うことにより、市民の皆さんのご期待に応えられるよう努めます。

平成14年度予算編成に当たっては、「市民によるまちづくり」と「市民活動の活性化」に期待を寄せ、次の点に留意しました。

1. 「第三次行政改革大綱」や「環境基本計画」など6つの計画を策定。
2. 少子、高齢化など福祉対策として、乳幼児医療費助成対象の拡大をはじめとする諸施策の充実。
3. 教育文化振興策として、学習支援講師などの拡充・強化、小中学校施設整備、脇本陣林家住宅（隠居家）などの文化財整備を推進。
4. 生活関連市道整備などの自治会要望を、計画的に推進。
5. 三和地区農業集落排水事業計画を見直し、高度処理合併浄化槽設置奨励金を新設。
6. 産業振興、勤労者対策として、融資制度の大幅な改善、工場誘致条例の改善、木曽川右岸用水施設緊急改築事業の農家負担の軽減などを行う。
7. 市民によるまちづくりのための「市民まちづくり推進室」を企画部に設置し、各種の施策を推進。
8. 姉妹都市ダボ市エリザベス・パークへ日本庭園を寄贈するほか、中山道400年祭協賛事業を推進。
9. 可茂地区の共通課題である市町村合併問題については、市民の皆さんとともに取り組みます。

平成１４年度会計別予算

一般会計から水道事業会計までの今年度当初予算は、３１９億３、８８８万円。これは、前年度当初予算合計と比較すると１２億１、９８０万円の減少です。

伸び率はマイナス3.7％となります。

会計別に見てみると、一般会計は、１６３億６００万円で、対前年比マイナス4.5％となり、3年連続のマイナスの予算となります。

国民健康保険会計など、7特別会計の合計は、１３６億６、６２０万円で、対前年比マイナス1.3％となります。

企業会計の水道事業会計は、１９億６、６８８万円で、対前年比マイナス１２.４％となります。

会　計　名	平成１４年度	平成１３年度	伸び率（％）
一 般 会 計	１６３億６００万円	１７０億６,８００万円	-4.5
国民健康保険会計	３５億４５０万円	３２億４,５０６万円	8.0
介護保健会計	１６億３,８２２万円	１５億３,２８６万円	6.9
老人保険会計	３６億９,１９８万円	３８億４,２３０万円	-3.9
公共下水道事業会計	３３億５８８万円	３５億９７６万円	-5.8
特定環境保全公共下水道事業会計	４億３,２７２万円	４億４,８０４万円	-3.4
農業集落排水事業会計	２億７,５９０万円	６億７,９３０万円	-59.4
東海環状自動車道工事残土処分事業会計	８億１,７００万円	５億８,８００万円	39.0
特別会計計	１３６億６,６２０万円	１３８億４,５３２万円	-1.3
水道事業会計	１９億６,６６８万円	２２億４,５３６万円	-12.4
合　　計	３１９億３,８８８万円	３３１億５,８６８万円	-3.7